



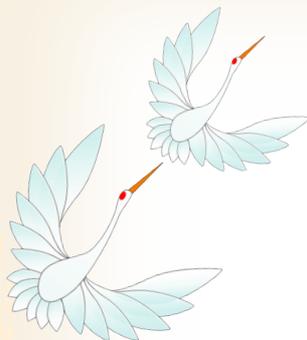
## 謹賀新年

二〇一二年の新春を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は東日本大震災という痛ましい出来事が起こり、それに伴い「人との繋がり」「絆」という言葉がクローズアップされました。

当社コムテックも、電話の応対や商品の配送により、皆様方と日々繋がっています。しかし、ただ単に「繋がっている」というだけで絆と呼べるのでしょうか。

「絆」とは辞書によると「断つことのできない人との結びつき」とあります。私どもは幸いにも、数ある企業の中からお選び頂き、こうして皆様方と繋がっております。この繋がりを「絆」にまで高め、不動のものとしていくことが、これからの当社の成すべきことだと考えております。



そのためにはどうすべきか

私は当社の社是である「誠心(まごころ)」であると考えます。

「誠」とは「嘘をつかないこと」「人に対して親切にして欺かないこと」とあります。

新年にあたり、コムテックは従業員一同気持ちも新たに、改めて「誠心」の意味を胸に刻み、皆様方との「絆」を深めていきたいと考えておりますので、今後ともより一層のご厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方にとって、今年が良き年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

株式会社コムテック  
代表取締役 小村 哲也



## ～ 編 集 人 の ひ と こ と ～

### コムラグループ

百周年を迎えて

弊社のグループ会社でガラスの卸売業を営んでおります「株式会社コムラ」が創立百周年を迎え、昨年十一月に和歌山県より百周年企業として表彰いただきました。また、十二月にはコムラグループとして創立百周年感謝の会を開催いたしました。

明治四十三年より続く歴史を紐解いてまいりますと、変わりゆく時代、変わりゆくニーズの中で、やはり紆余曲折あったことがわかりましたが、本当に多くの人に支えられた百年という節目を迎えられたのだと実感いたしました。私どもコムテックはまだまだ百年企業とは程遠くはございますが、この節目の折、皆様にご厚く御礼を申し上げますとともに皆様のパートナーとして末永くお付き合いいただけますよう、今後も精進してまいります。



## ●コムテック“企画営業部”のご紹介

私たち企画営業部では、主に電話対応、福祉用具デモ品の受付及び手配などを行っております。部員は5名で、弊社コムテックの電話窓口を担当させて頂いております。

商品に関するご相談や福祉用具デモ品に関するお問い合わせ等も担当させて頂いておりますので、お客様には常に最新の情報と高い知識をもって対応できるよう、日頃から部内で密に連携を取りながら業務に務めております。

また、私たちの業務は、電話を通してお客様と直接お話しさせて頂く機会も多く、お客様をより身近に感じております。お客様との会話から元気を頂く事もありますし、お問い合わせやご相談によって私たちが学ぶ事はたくさんございます。まだまだ未熟ではありますが、お客様と同じ立場になって、精一杯の対応をさせていただきますので、私たちの電話対応について何かお気づきの点がございましたら、ご遠慮なく御申し付け下さい。

お客様がより満足して頂けるよう、お客様と一緒に前へ進んでいけるよう、力を合わせて頑張りますので、これからも私たち企画営業部を宜しくお願い致します。

コーナー担当：企画営業部



TANNO

SATAKE



OOKA

SAKOISHI



KISHI

お気づきの点、ご意見・ご要望がございましたら  
お気軽にお問い合わせください。

the職人  
シリーズ

## 第2弾 “緩衝材のひみつ” Part 2

前回、私たちが梱包時に使用している緩衝材が和歌山県立紀北支援学校の高等部の皆さんが作ってくれている事をご紹介させて頂きましたが、先月、その支援学校の皆さんが、自分達が授業で作っている緩衝材が、その後、どのように使われているのか、コムテック倉庫へ見学に来て下さいました。今回はその見学会の様子を少しご紹介させていただきます。



見学会当日は5人の先生と13人の生徒が来て下さいました。

実際に梱包しているところを見て、目を輝かせている生徒もいれば、倉庫に陳列されている商品が、家で見ると初めて見るものまで、数多くある事に大変驚いている様子でした。また、商品を陳列している棚（稼働棚）が動く事や予想外に軽い事にも驚いたようで、何度も棚を押したりひいたりしていました。玩具の棚の前では「何処から仕入れるの?」「何処から注文あるの?」「何処へ送られるの?」「一番近い施設は?」と、とても気になったようで、何度も質問して頂きました。そんな中、

「みんなの緩衝材は北海道から沖縄まで、これらの商品と一緒に旅してるんだよ。」の先生の言葉は、生徒の皆さんだけではなく私たちも感動しました。

今回、支援学校の皆さんが、とても興味深く楽しそうに見学されている様子を見て、私たちも大変暖かい気持ちになり、生徒の皆さんが頑張ってくれた緩衝材を商品と同じように大事に使っていきたくと改めて感じました。商品を梱包する時、今回の支援学校の皆さんの笑顔を思い出し、これからも生徒の皆さんの暖かい想いを、商品や緩衝材と一緒にお客様へお届けしていきたくと思います。

コーナー担当：業務部

